

Palo Alto Networks 次世代ファイアウォール

※「PAシリーズ」は「次世代ファイアウォール」に名称が変わりました。
本事例内容は公開当時のものです。

TOYOTA InfoTechnology Center, U.S.A., Inc.様 海外導入事例

さまざまな新しい技術や製品の社外秘情報を
取扱っているトヨタIT開発センター。
情報漏洩の抑止、セキュリティレベル向上のため、
「Palo Alto Networks PA-500」を導入。



■ 最先端の研究開発活動

トヨタIT開発センターは、2001年4月に米国法人を設立し、専門分野も国籍も多様な人材で構成されています。進展が著しいIT業界の動向を深く理解し、クルマにとって有用な技術や情報を探索し、逸早く見極めると共に、「外に開かれた」集団として、魅力あふれる車づくりと、持続的な発展が可能な調和のとれた交通社会の実現を目指しています。要素技術からシステムに及ぶ幅広い分野において、最先端の研究開発活動や提案に積極的に取り組んでいます。

■ ネットワーク状況の把握が課題

トヨタIT開発センターは、研究開発施設のため、さまざまな新しい技術や製品の社外秘情報を取扱っています。これまでは施設内のネットワークは既存のファイアウォールでセキュリティを守っていましたが、実際にどれくらいのインターネット利用があるか、どのようなアプリケーションが利用されているか、情報漏洩に繋がらうる活動が社内で行われていないか、マルウェアや脆弱性の攻撃を受けていないか、などの情報を把握できていませんでした。

【期待する効果】

1. ネットワークパケットを監視/可視化したい。

研究開発施設で、どのようなアプリケーションが利用されていて、マルウェアや脆弱性の攻撃を受けていないか、情報漏洩が行われていないかなど、セキュリティ面のチェックが可能である。また万が一情報漏洩が起こってしまった場合でも送信元特定が必要である。

2. PAシリーズの導入を社員に告知することで、自主的な抑止力を期待。

研究開発施設内で不適切なアプリケーションが利用されない環境作りに役立つ。

3. 施設外からの攻撃を防止し、セキュリティレベルを向上させたい。

PAシリーズの機能を有効活用し、不要なアプリケーション利用を制限し、DoS攻撃防御、脆弱性攻撃防御やウェブフィルタリングの機能などを利用して社外からの攻撃を防止する。



■ 手厚いサポート力と信頼性が大きな選択の理由

既存ファイアウォールを導入しているものの、従来は、インターネットの利用量やネットワークで何が起きているのか把握することができていませんでした。そこで、ITセキュリティのコンサルティングを、ある会社にお問い合わせしました。その際に、ソリューションの一つとして、「Palo Alto Networks PA-500」の紹介を受けたのがPAシリーズを知ったきっかけです。

また、現状のインフラについてはHitachi Solutions Americaのサポートエンジニアが顧客サイトで、管理者運用代行サービスを週一回行っていたため、今回PAシリーズの提案、導入、保守運用をHitachi Solutions Americaにお願いすることになりました。PAシリーズの魅力だけでなく、Hitachi Solutions Americaの手厚いサポート力と信頼性が大きな選択の理由です。

システム概要としては、PA-500×1台+Threat Prevention+URL Filtering+サポートライセンスで、2014年2月19日より稼働開始しました。

※Hitachi Solutions Americaは日立ソリューションズのグループ会社です。
グループ間の連携を活かし、PAシリーズの提案、導入のバックアップを日立ソリューションズが行いました。

■ 今まで把握できなかった利用状況を可視化可能に

導入にあたって、まずは現状のネットワーク可視化を目的にTAPモードで複数箇所をモニタリングしています。これまで把握できていなかったインターネットの利用量や施設内でのどのようなアプリケーションが利用されているかを確認できるようになりました。

また、通信速度に影響を与えていた原因が膨大な量のDNS通信と判明し、DoS攻撃だということが把握できました。将来的にはインライン導入を行い、不要な通信を制御し、不正アプリケーションの抑止、DoS攻撃の防御を実施していこうと考えています。



TOYOTA InfoTechnology Center, U.S.A., Inc.
Corporate Affairs Division
Senior Manager
Jun Imaizumi (今泉 淳)氏



| | |
|-------|---|
| ■ 名称 | TOYOTA InfoTechnology Center, U.S.A., Inc. |
| ■ 所在地 | (US本社) 465 Bernardo Avenue, Mountain View, CA 94043 |
| ■ URL | http://us.toyota-itc.com/ |

※本事例の内容は取材時点(2014年7月)の情報です。※Palo Alto Networksは、Palo Alto Networks, Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。※その他本文中の会社名、商品名は各社の商標、または登録商標です。※本文中および図中では、TMマーク、®マークは表記していません。※製品の仕様は、改良のため、予告なく変更する場合があります。※本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明な場合は、当社担当営業にお問い合わせください。※本文中の情報は、事例作成時点のものです。



本事例のwebページはこちら

www.hitachi-solutions.co.jp/paloalto/case09/

◎ 株式会社 日立ソリューションズ

www.hitachi-solutions.co.jp



本カタログ掲載商品・サービスの詳細情報

www.hitachi-solutions.co.jp/paloalto/

J14K-20-03

2024.09